

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390400160		
法人名	(株)桜梅桃里		
事業所名	グループホーム和楽の家荘内		
所在地	岡山県玉野市長尾333-3		
自己評価作成日	平成28年10月26日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 高齢者・障がい者生活支援センター		
所在地	岡山市北区津高628-1		
訪問調査日	平成28年11月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

両ユニットの入居者様が行き来し、分け隔てなく「1軒の家」と認識し生活しています。入居者様の残存能力を生かし、自立支援を行っています。地域から孤立しないよう、地域行事に参加(道掃除)したり、地域の企業の作業(しいたけ加工作業)を入居者様と行ったりしています。ホームの行事には、ちらしを配ったり声掛けしたり、参加を促したりしています。また、ご家族様とも情報を提供し報・連・相を怠らないよう努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

桜梅桃里グループの「尊厳」「自立支援」「安心・安楽」の介護三原則を根本として、機能低下の予防から残存能力を活かした支援に努めている。ボランティアによる音楽療法、貼り絵などで生活に変化を取り入れながら日々、会話を通して意向や思いの把握に努め、穏やかで安心して暮らせるよう努めている。又、地域密着型のグループホームとして地域への貢献にも取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	本社の基本理念・基本指針を基に、ホーム目標をスタッフ全員で考え、その理念に基づいたケアを心掛け努力している。	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念の下、職員個々の介護目標を職員間で共有し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年2回の地域掃除に参加したり、週1回、地域の企業から、椎茸加工作業を配達して頂き、入居者様と作業している。	日々の散歩や地域行事に参加することによって顔見知りとなり、お互いに挨拶を交わせるようになった。又、地域のシイタケ加工品が道の駅で販売されることが決まっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトとして地域の中学校に認知症サポーター養成講座に参加し認知症の方の思いや対応を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政・御家族様に経過報告・行事報告を行う。スライドを観て頂きながら説明・様子を伝えると、大変、喜ばれている。	運営推進会議を活かした取り組みは積極的に行っているにも関わらず(行政や家族の方々のみの参加)、地域の方々にとって敷居が高いのか参加が少なく課題になっている。	入居者が地域とつながりながら暮らしつづけるよう支援するために、これからも運営推進会議の内容を工夫しながら、地域の方々の参加を促し、一層活かされることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護の入居者様がおられるので年4回程、市の方が訪問し近況等を説明したり、2か月に1回、介護相談員の方が来所されホームでの様子を見て頂いている。市が開催する懇談会にも参加している。	市町村担当との協働関係を築くよう取り組んでいる様子が窺える。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中が玄関を開錠し、常時、入居者様の所在確認を行っている。両ユニットの職員が協力し玄関の報知音が鳴れば、玄関の方へ確認に行く。	安全に留意するあまり、行動範囲を狭めていないかと気遣いながら、「身体拘束をしないケア」に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回、アセスメントを行い、高齢者虐待5原則の話をしたり、職員がストレスを抱え込まないように、その日の内に解決できるよう話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については職員と学ぶ機会は持っていないが、外部の研修があれば参加を促す。成年後見制度を利用している入居者様については、管理者が対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には分かりやすく要約しながら説明を行い、疑問や困った点はないか、尋ねている。退居時も入居時と同様に説明や質疑応答を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望や意見を気軽に書いて頂くように、玄関へアンケート用紙を設置している。面会時にはホームでの様子を伝えている。	家族でなければ解らない微妙なことを気軽に相談され、工夫して対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、会議を開催し、意見交換や要望等、何でも言い合える雰囲気作りに留意している。	入居者が居心地よく安全に暮らせる為の工夫や提案など実践に繋げ、積極的に取り組んでいる(加湿の工夫、入浴時の工夫など)。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、アセスメントを実施し評価している。人手不足で勤務的には厳しいものがある。資格取得に向けた支援は進んで頂くよう支援している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内がくれば提示し職員に伝えている。年に1～2回は勉強会を開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市が開催する懇談会に参加したり、研修に参加したりして情報交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアマネジャーの方やご家族様から情報を収集しインタビュー時に本人の話聞き、困っている事・不安に思っている事を傾聴し信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学に来られた時や電話での問い合わせ時に相談に乗り、不安や困った事、要望等を尋ね聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な相談者には可能な限り対応を行い、ケアマネジャーと相談し他のサービス利用をつなげる等の対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員には、自分だったら、どのような介護をしてもらいたいかを考えてケアをするよう指示し、一緒に楽しく生活できる環境作りをし、日頃からコミュニケーションをしっかりとるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の様子を常日頃から伝える事で家族との協力関係・信頼関係を築けるよう努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも面会に来て頂いたり、ご家族様が一緒に外出し行きつけの美容院やスーパーに買い物に出かけたりしている。	馴染みの人を理解するのは非常に難しく、知らない人から親しみを込めて声を掛けられても、個人情報関係で入居者の情報はお答えできないことがある。入居者及びご家族と密にコミュニケーションを取り、関係継続の支援に活かしたいと努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングではテーブルを囲んで皆と一緒に食事したり作業したり、職員が声掛けし仲介役をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	何かありましたら、いつでもご連絡を下さいと伝え、継続的に付き合いができるよう心掛けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日、コミュニケーションをとり、今の思いや希望を聞いたり、表情を読み取り不安なく生活できるよう努めている。	介護のための暮らしだけではなく、生活のための心を支える支援ができる様、日々の関わりの中で声を掛け、意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に生活歴シートをご家族様に分かる範囲で記入して頂き、サービスの利用に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日、その時間によって入居者様の状態は違うので見極めながら、できることを見出し役割に繋げている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、生活向上会議を開催し、課題があれば話し合い、目標が達成できるようなケアができるようプランを立てている。	介護計画は日々の気付きや疑問に思ったことを大切にしながら、またご家族には入居者の現状を説明し理解してもらい、現状に即した計画の作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ボールペンの色を変えながら、職員、皆が情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況が変われば、情報を収集しながら医師・看護師・薬剤師・職員と相談しながら対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月に1度のボランティアによる音楽療法・訪問散髪・しいたけ加工作業を実施し楽しんで暮らして頂けるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医や精神科医とも連携をとりながら、本人や家族が希望する医療が受けられるよう支援している。	定期的な往診を利用しながら、かかりつけ医の受診は、家族の協力を得ながら支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に常に相談・指示を仰ぎ対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の相談員と連携を取りながら、早期退院できるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	できるだけ早い段階から主治医・看護師・家族・管理者・職員の皆で連携をとりながら、よりよい支援ができるように努めている。	日々のケアの中で信頼関係を築くように努め、本人・家族の意向に添い、事業所で出来る事、出来ない事を明確にして支援に努めている。	現在、入居者の方がお元気ということもあるが、看取りについて全職員が研鑽を重ね、入居者・家族等が安心できる情報提供と対応・支援ができる様期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1回は救急講習法を受けマニュアルや資料も現場に置き、冷静に落ち着いて対応できるよう、日頃から話し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を実施している。自然災害時の避難方法は近所の方にお問い合わせが出来るよう連絡網を作成している。	事業所の横に流れる側溝が氾濫した経験を基に、避難方法を職員が身に付け地域との協力体制を築くよう努めている。	職員が身に付けた避難方法を基に、避難先への経路(所要時間)・方法など具体的にシミュレーションして、地域との協力体制を築かれることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様に対する言葉使いに気をつけ、常に私達の人生の大先輩として敬意を払うよう心掛けている。	馴れ馴れしくならず、他人行儀にもならない様適度な距離感を保つよう、職員同士で注意し合いながら言葉かけや対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	しっかり傾聴し、表情を観察し、できることを見出し自立支援にむけて対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合で入居者様の気持ちを無視してはならないよう、職員に指導している。入居者様が日々楽しく生活して頂くよう、心がける様伝えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一緒に衣服を選んだり、マネキュアしたり、カラーをいれたり、いつでも若くおしゃれに興味を持っていただくような声掛け・対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事形態表を作成し、職員は把握。野菜を切ったり、皮をむいたり、一緒に準備・盛り付けを行うことで楽しみに召し上がって頂いている。	入居者の積極的な参加もあり、準備や片付けなど職員と一緒にいる(入居者が包丁を使って料理している姿を、スライドで家族に見てもらい喜ばれた)。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、食事量や水分量をチェックし水分が進まない方には、ゼリー状にしたり甘めにしたりと工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食時は口腔ケアを行い、本人ができない場合は介助し口腔ケアを行っている。又、週2回、訪問歯科の往診を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導表に記入し排泄リズムを把握し定期的にトイレ誘導を行っている。	自力でトイレに行くということは、とても重労働な方もいる。手伝って簡単に済ませる事もできるが、残存能力の出来る力を導き出すため、見守って自立にむけた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の確保や適度な運動、ご飯を炊く際は、粉寒天を入れたり便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	自宅で入浴していたように、リズムを狂わさないようにしている。時間は設定していない。	浴槽に入りにくい方もいるので風呂場の手すりや足場を設け、入浴が楽しめるよう個々に添った支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	車椅子の方は同じ姿勢で座っているのは疲れるため、午後から1時間ほどベッドで休んで頂いている。本人の生活リズムを崩さないよう、又、リズムが崩れている方には、リズムを整えるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	提携している薬剤師と連絡を取り合い、情報交換し服薬管理・症状の変化に気づけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前の生活歴・趣味等を把握し役割を持って生活して頂いている。又、カラオケやゲーム等のレクリエーションを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調が良い日・時候の良い日は散歩に出かけたりしている。外出行事には本人の要望を聞き、行き先を決めている。ご家族様に案内をし声掛けしている。	日常的にはデッキにでて日光浴をし、五感を刺激するようにして、入居者・家族の声に耳を傾けながら外出支援に取り組んでいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は、ご家族様が管理している。本人がお金を持っていると、物盗られ妄想が激しくなったりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っておられる方は電話されている。ご本人様が希望があれば、その都度、ご家族様に連絡をとっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を入居者様とプランターに植えたり、ホールにアロマを置いたりリラックスして過ごして頂くよう心掛けている。冷暖房の管理は職員が行なっている。	家族が季節の花を持ってきてくれると入居者がそれを居間に活けている。又、加湿にアロマの香りを加え、入居者が居心地よく過ごせる様工夫し、ゆとりのある家具の設置や「便所」と大きく掲示し入居者が迷うことなく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳みの部屋もあり落ち着いて過ごせる場所もあり、リビングにはテレビ・ソファー・カラオケを置き、ご自分の居室以外でも、のんびり過ごして頂けるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使われていた家具やインテリアなど、好きな物を持ってこられ、なるべく自宅に近い環境にしている。	ベッドの使用が不慣れな入居者には、畳の上に布団を敷いて対応するなど、居心地よく過ごせるよう一人ひとりに合わせた工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレには「便所」と大きくドアに書いてある。迷っているような時は声掛けし誘導している。		